



ひとつぶの種

杭州日本人学校
学校便り第155号
令和4年2月号

大切にしたい子どもの褒め方

～「条件付きの褒め」と「無条件の褒め」～

年が明け、早いもので1月が終わり、いよいよ中国のお正月「春節」を迎えます。2月3日は「節分」、4日には「立春」と、暦の上では春になります。厳しかった冬の寒さが次第に緩み、木々の芽も少しずつ膨らみ始めます。多くの生き物が春に向けての準備を始める時季です。



さて、かつてある講演会で講師から「子どもの褒め方」について心に残る話を聞きました。「子どもは褒めて育てるとよい」ということは、すでに通説となっていると思います。皆さんは、お子様がテストで百点をとって帰ってきた時や、参加したコンクール等で1等だった時、お子様にどのような言葉を掛けるでしょうか。多くの場合は「百点だったの。よくがんばったね!」「コンクール1等取れたね。すごい!」という褒め方をするのではないのでしょうか。これは一見、適切な褒め方のように思えますが、「百点だったから」「1等だったから」という結果を褒める気持ちが見えます。このように褒められ続けた子どもの中には、「百点でなければ(1等でなければ)親はうれしくないのかな…」という気持ちが積み重なり、そこに至る努力の過程を楽しめなくなり、結果のみにこだわってしまう傾向が強くなる場合があります。



一人一人の子どもが同じような努力をしても、全員が同じような結果になるとは限りません。その結果が満足のものであってもそうでなくても、そこに至るまでの過程を十分に認め、褒めてあげることも大切です。特に結果が良かった時などは、ついその結果ばかりを褒めてしまいがちですが、そういう時にこそ、そこに至るまでの過程を認めることを大事にしていきたいです。私自身の子育てを振り返ってみて、我が子に対してそのような褒め方ができていなかったと大いに反省をしました。

さらに、講師からは「子どもの褒め方には2種類ある」ということも教わりました。

1つ目の褒め方は、前述したような子どもが頑張った時や目標を達成できた時に、**努力の過程や結果について褒めること**、ある意味『**条件付きの褒め**』といえます。褒める側が結果にこだわり、子どもをコントロールする意図が入りすぎないように注意する必要があります。

2つ目の褒め方は、**子どもの存在を丸ごと肯定して褒めること**。いってみればこちらは『**無条件の褒め**』であり、子どもにとっては一番うれしい褒められ方です。

どちらの褒め方も大切ですが、ご家庭で特に心掛けていただきたいのは後者の『**無条件の褒め**』です。なぜなら、「あなたがいてくれるだけで嬉しい」という言葉の中に、家族だからこそ伝えられるプラスアルファがあるのです。「生まれてきてくれてありがとう」「あなたがいてくれて、お父さんとお母さんは本当に幸せ」と、**子どもの存在そのものを褒めることで、子どもは親の愛情を強く実感し、自分の存在を肯定できるようになります**。長所も短所も併せもった自分を「価値ある人間だ」と捉えられるようになり、自己肯定感を育てることができます。自己肯定感をもてた子は、他者との違いを理解し、それを認め、他者を思いやることもできるようになります。



私自身も、杭州っ子たちに「ただそこにいるだけで十分嬉しいよ」というメッセージを伝えていく姿勢を、常に忘れずにもっていたいと思っています。